

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成25年 5月 17日現在

機関番号：17102

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2011～2012

課題番号：23730025

研究課題名（和文） 議会法・議会先例の形成過程の解明

研究課題名（英文） Research on the making process of parliamentary law and praxis

研究代表者

赤坂 幸一（AKASAKA KOICHI）

九州大学・法学研究院・准教授

研究者番号：90362011

研究成果の概要（和文）：

本研究においては、従来全く未解明の状態におかれてきた、衆議院事務局による先例集（議会先例）の形成・運用過程の解明を試みるとともに、併せて、国会法・議院規則の制定・運用の在り方を明らかにすることを通じて、我が国の議会法・議事法が内包する特質・問題状況を明らかにすることを試みた。

そのための具体的な方法としては、議会法学の文献に基づく比較法研究、事務局所蔵資料を用いた実証的研究、および、事務局関係者からの聞き取り調査（オーラルヒストリー）といった手法を総合的に活用することによって、各々の研究手法のみからでは得られない立体的な議事法像を描くことを試みた。

研究成果の概要（英文）：

In this research, the main stress is put on these three points. Namely, 1) to make a comparative research based on parliamentary laws and praxis, 2) to make a demonstrative research based on not-published materials which the parliamentary office has bishere possessed, and finally, 3) to make use of the oral-history-method, especially to the persons who had once worked in the Diet office as the executives.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	1,500,000	450,000	1,950,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：法学・公法学

キーワード：議会法、議会先例、憲法

1. 研究開始当初の背景

研究代表者の従来の研究は、議会法の形成過程の解明を主たるテーマとしており、明治議院規則の成立過程に関する研究（「明治議院規則の制定過程(1)/(2)完」）や、国会法の制定に関する研究（「戦後議会制度改革の経緯(1)」、「占領下における国会法立案過程」、翻訳「占領期における議会制度改革(1)/(2)完」）、

さらには『逐条国会法〔全8巻〕』等の成果を公表してきた。

これらの研究を遂行する過程で、憲法制定過程をはじめとする、現行統治システムの立案・構築期の未公開史料群が衆参両院に遺されていることが判明した。議会事務局としても、外部研究者との協力を契機にして、同院が所蔵する歴史的史料の整理・保存・公開に

努めたいという意向であった。

国会両議院の所蔵するこれらの資料は、従来、完全に非公開とされ、研究目的で調査されたことは全くない。内閣及び省庁が所蔵していた史料は、国会図書館憲政資料室や国立公文書館で公開されているが、議会両院の内部史料については、個人が作成・保管した史料（例、西沢哲四郎文書、鈴木隆夫文書。ともに憲政資料室で公開）を除き、両議院の倉庫に一括して保管されたまま、外部研究者の利用に供されることがなかった。したがって、本研究計画に相応するような内外の研究成果は皆無であった。

2. 研究の目的

以上の研究背景を踏まえて、本研究においては、(1) 憲法学・議会(法)学・政治学の隣接領域に位置する議会先例・憲法体制などの形成運用過程につき、未公開資料群に基づいた斬新かつ学際的な実証研究を行う点、(2) 衆参両院事務局の全面的な協力を得つつ、オーラル・ヒストリー・メソッドを駆使することによって、実務経験と学問的分析の架橋を図る点、(3) 研究の過程で発見・整理した重要資料を広く一般にも公開し、特に重要なものについては出版・マイクロ撮影等によって学術的基盤を強化する点に、研究の主眼を置くこととした。

第一の点について敷衍すれば、(a)議会両院の事務局が所蔵する議会先例等に係る未公開資料群、および国会法・議院規則の立案過程に関わる未公開資料群を活用することによって、(b)従来全く未解明の状態におかれてきた、衆議院事務局による先例集（議会先例）の形成・運用過程を解明することを目的とするとともに、併せて、(c)国会法・議院規則の制定・運用の在り方を明らかにすることを通じて、我が国の国会法・議事法が内包する特質・問題状況を明らかにすることを、主たる目的とした。

3. 研究の方法

したがって、そのための具体的な方法としては、次の三点に重点を置いた研究手法を採用した。すなわち第一に、憲法学・議会(法)学・政治学の隣接領域に位置する議会先例・憲法体制などの形成運用過程につき、未公開資料群に基づいたあらたな実証的・歴史的なアプローチを試みるとともに、第二に、いわゆるオーラル・ヒストリー・メソッドを駆使することによって、実務経験と学問的分析の架橋を図り、議会先例や議会慣習の形成主体の在り方にも研究の焦点を当てることを図り、第三に、研究の過程で発見・整理した重要資料を、広く一般に公開して、今後の

議会政治史学や憲政史学の学術的基盤を強化すること、である。

4. 研究成果

第一点・第三点については、レヴァイアサン誌に議会先例の形成過程を扱った「統治システムの運用の記憶」を公表したほか、資料集として共編著『議院規則に関する書類』を公刊している。また、雑誌論文(6)「鈴木隆夫と議事法」では、戦前から戦後期にかけての議会官僚が、現在につながる議会法秩序を構築・構想するに際して果たした役割の一端を、事務局制度との関連から解明している。

第二点についても、そのため、先例集・議事法の形成にかかわってきた議会実務者への聞き取り調査を精力的に行い、下記のような3件のオーラルヒストリー報告書を新たに公刊したほか、従来のオーラルヒストリーの成果を広く一般に還元し、議事法・議会法に関する研究基盤を拡充するという観点から、今野或男氏（衆議院事務局議事部副部長）および近藤誠治氏（衆議院事務局議事部長、初代調査局長）、谷福丸氏（衆議院事務総長）のオーラル・ヒストリーをブラッシュアップし、関連する資料を補充して、広く一般に刊行することとした。併せて、参議院事務総長経験者のオーラル・ヒストリー報告書をブラッシュアップした一般書籍も刊行準備中であり、さらに、参議院委員部長として議事法規に精通した川上路夫氏からの聞き取り調査について、現在も継続して実施中である。最後者については、特に参議院委員部の運営や変遷について、包括的な聞き取り調査を実施することができており、2013年度中にはこの調査も完了し、報告書として刊行できる見込みである。

第三点については、とくに衆議院事務局庶務部における庶務課日誌の発掘に成功し、デジタル撮影・保存措置を講じたほか、参議院においても、憲法制定過程に関与した当局者が遺した秘密研究会（浮草憲法研究会）の議事録を発掘し、内容面での精査を進めるとともに、その公開に向けた準備を行っている。

また、現代憲政史にとって意義ある史料として、衆議院事務局委員部長を務めた平野貞夫氏の事務局時代の日記の一部を翻刻した『消費税国会の攻防——平野貞夫・衆議院事務局日記』を公刊したが、同書は消費税の導入過程という政治史研究の観点からのみならず、議会先例の形成過程・憲法秩序の具体的な運用の有様を理解するという観点からも重要であり、解散権行使の限界や、予算の自然成立の算定に際して両院協議会の開催要請をいかに考慮すべきかなど、実際の憲法運用問題にかかわる論点が多く含まれている。また、未だ顕在化していないが今後憲法

問題になる可能性のある事柄も、随所に含まれていることから、昭和 60 年から平成 4 年までのすべての時期をカバーする完全版〔全 5 巻〕を、2013 年度中に刊行する予定である。

このように、本研究では、従来学問的な研究があまり行われてこなかった「議会官僚」の存在に焦点を当て、議会運営や議事法の形成過程においてこれらの「議会官僚」が果たす役割をクローズアップし、その衡量過程を解明することを通じて、憲法学の一領域たる議会法の領域に、実務的な視点をも取り入れながら、初めて本格的に研究の光を当てることができた。その他にも参議院制度の在り方や、憲政秩序における議会官僚の在り方など、関連する論稿を公表している（次項を参照されたい）。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 7 件）

(1) 赤坂幸一「議事堂火災と議事法研究」『議院規則に関する書類』（尚友倶楽部、2012 年）1～10 頁、査読無

*DOI コード及び URL なし

(2) 赤坂幸一「鈴木隆夫と議事法」『国会法の理念と運用』（信山社、2012 年）1-10 頁、査読無

*DOI コード及び URL なし

(3) 赤坂幸一「参議院議員選挙と『投票価値の平等』」平成 23 年度重要判例解説（2012 年）8-9 頁、査読無

*DOI コード及び URL なし

(4) 赤坂幸一「憲法習律とフランス憲法学」『憲法改革の理念と展開〔上巻〕』（信山社、2012 年）724～759 頁、査読無

*DOI コード及び URL なし

(5) 赤坂幸一「法律と条令の関係——新条例論を踏まえて」法学セミナー684 号（2012 年）65～67 頁、査読無

*DOI コード及び URL なし

(6) 赤坂幸一「憲政秩序と議会官僚——韓国国会事務局調査の概要」衆議院調査局論究 8 号（2011 年）204～214 頁、査読無

[http://www.shugiin.go.jp/itdb_rchome.nsf/html/rchome/Shiryoyo/2011ron8.pdf/\\$File/2011ron8.pdf](http://www.shugiin.go.jp/itdb_rchome.nsf/html/rchome/Shiryoyo/2011ron8.pdf/$File/2011ron8.pdf).

(7) 赤坂幸一「参議院をどうするのか」朝日ジャーナル特集「未来の政治図」（2011 年）

42～44 頁、査読無

*DOI コード及び URL なし

(8) 赤坂幸一「統治システムの運用の記憶——議会先例の形成」レヴアイアサン 48 号（2011 年）65～98 頁、査読無

*DOI コード及び URL なし

〔学会発表〕（計 5 件）

(1) 赤坂幸一「議院運営実務と公法学」北海道大学立法過程研究会（2013 年 3 月 6 日）北海道大学

(2) 赤坂幸一「萍憲法研究会の憲法論議」、「未公開資料群に基づく二院制の比較憲法史的研究——議院運営実務と議会官僚の衡量過程」第 1 回研究会（2012 年 12 月 21 日）参議院第二別館

(3) 赤坂幸一「定額罰金と裁判を受ける権利」フランス憲法判例研究会（2011 年 10 月 6 日）名城大学

(4) 赤坂幸一「議会習律・先例と憲法学」九州大学公法判例研究会（2011 年 7 月 30 日）九州大学

(5) 赤坂幸一「韓国国会事務局調査の概要」衆議院調査局研修会（2011 年 7 月 26 日）衆議院調査局

〔図書〕（計 7 件）

(1) 谷福丸（著）、赤坂幸一・中澤俊輔・牧原出（編著）『議会政治と 55 年体制——衆議院事務総長の回想』（信山社、2012 年）350 頁

(2) 赤坂幸一・奈良岡聰智『消費税国会の攻防——平野貞夫・衆議院事務局日記』（信山社、2012 年）500 頁

(3) 曾我部真裕・赤坂幸一・新井誠・尾形健（編著）『憲法論点教室』（日本評論社、2012 年）212 頁

(4) 曾我部真裕・赤坂幸一（編）『憲法改革の理念と展開 上巻』（信山社、2012 年）830 頁

(5) 曾我部真裕・赤坂幸一（編）『憲法改革の理念と展開 下巻』（信山社、2012 年）950 頁

(6) 近藤誠治著、赤坂幸一・奈良岡聰智（編著）『立法過程と議事運営——衆議院事務局の三十五年』（信山社、2011 年）432 頁

(7) 今野彧男(著)、赤坂幸一・奈良岡聰智(編著)『国会運営の裏方たち——衆議院事務局の戦後史』(信山社、2011年) 424頁

[その他]

(1) 赤坂幸一・奈良岡聰智・村井良太『平野貞夫オーラルヒストリー [上巻]』(2011年) 309頁

(2) 赤坂幸一・奈良岡聰智・村井良太『平野貞夫オーラルヒストリー [下巻]』(2011年) 300頁

(3) 赤坂幸一・中澤俊輔・牧原出『谷福丸オーラルヒストリー』(2011年) 422頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

赤坂 幸一 (AKASAKA KOICHI)

九州大学・法学研究院・准教授

研究者番号 : 90362011

(2) 研究分担者

()

研究者番号 :

(3) 連携研究者

()

研究者番号 :